

離島航路の維持について

【国土交通省】

提案・要望の内容

離島航路は、本土と離島を結ぶ道路の役割を果たしており、離島で生活する人々にとって欠くことのできないものであるが、離島の急激な人口や観光客の減少による需要減などにより、運航事業者の経営は厳しい状況にある。

本県における隠岐航路は、島民2万3千人の日常生活を支えるとともに、年間40万人の乗客を運んでおり、観光をはじめ、隠岐の地域振興を図る上で必要不可欠なものである。

このため、現在、国で進められている「離島航路補助制度」の見直しに当たっては、隠岐航路を補助対象とすること。

○乗船客数の内訳 (H20)

島民	観光	ビジネス	帰省	計
169千人	103千人	84千人	49千人	405千人
42%	25%	21%	12%	100%

- ※島民の生活に欠かせない交通手段
- ※島民の生活物資を日々輸送



交通費は陸路の約3～6倍負担

隠岐航路約70km

国道485号線
(隠岐の島町～松江市)

○高速道路料金とフェリーの車両運搬費比較

- ※普通乗用車
- ・フェリー：約22,000円(片道)
- ・高速道路：1,000円(H21.3.28～休日割引実施)

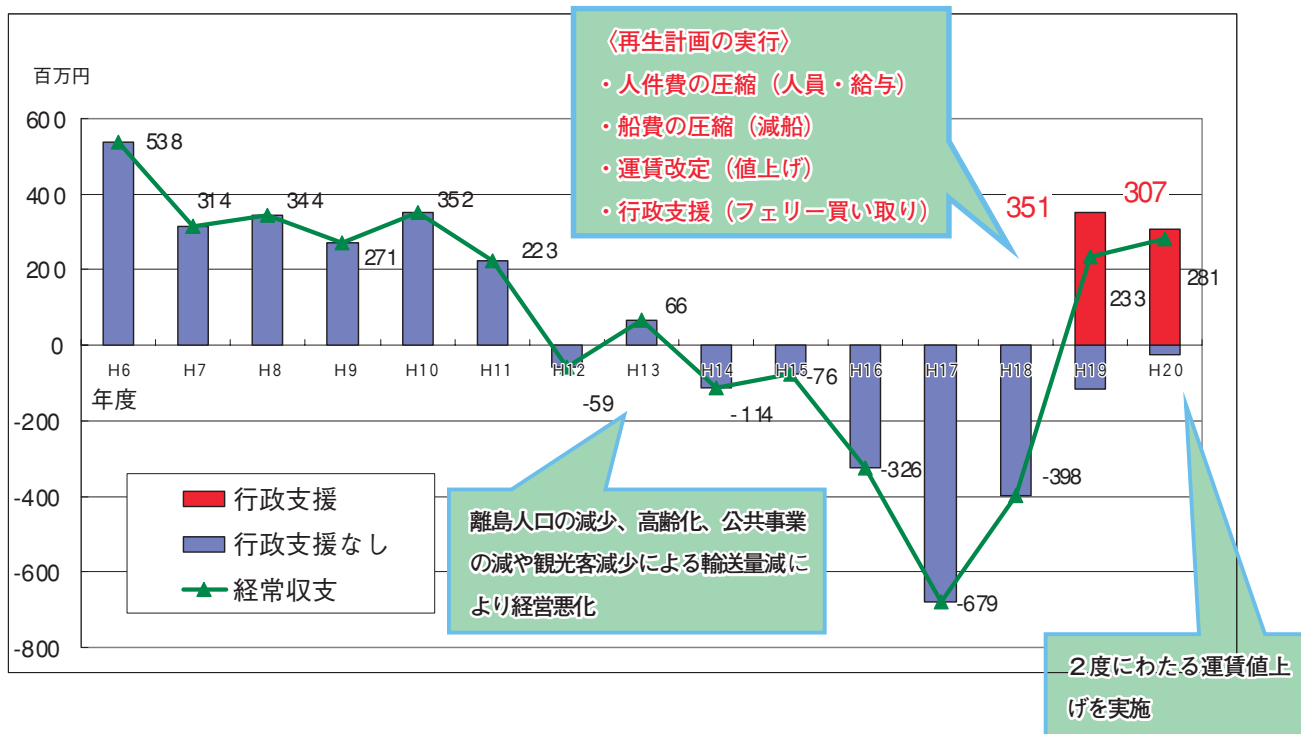
○陸路(70km)との運賃比較

- ・フェリー：3,050円(片道) 44円/km
- ・高速船：5,940円(片道) 85円/km
- ・JR運賃：1,110円 16円/km

※陸路と比べ大きな格差

○隠岐汽船の経営状況

※行政の支援で何とか経営を維持（放置すれば、赤字転落）



【現状と課題】

- 離島航路の大半は、採算面で厳しい状況にある中、本県の隠岐航路事業についても、急速な人口減少や高齢化、公共事業の大幅な減少による需要減などにより、経営難に直面しているが、現行の離島航路補助制度においては、対象航路として支援を受けることが難しい状況にある。
- 離島航路は、島民の生活を支える生命線であることから、運行事業者、国、県、地元市町村が連携して航路の維持・改善に向けて取り組む責任がある。
- 本県では、運行事業者の経営改善を指導するとともに、地元市町村とともに支援を行っているが、根本的な改善には至っていない。

【本県の取組状況・方針】

- 本県隠岐諸島と本土を結ぶ唯一の航路事業者である隠岐汽船(株)は、需要減や燃料費の高騰などにより、平成17年には実質債務超過となる危機的状況に陥った。
- 平成18年度に経営再生計画を策定し、業務の見直し、人件費をはじめとした経費削減、旅客運賃の値上げ、減船・減便、増資等に取り組むなどにより、経営再建中である。
- 本県は市町村と共にフェリー買い取りや港湾施設使用料の減免等による支援策を講じている。

【提案要望の効果】

- 離島航路を維持・確保を図ることにより、島民生活の安定かつ向上に資するとともに、離島の有する我が国領域・排他的経済水域の保全などの機能面で、国家的国民的貢献を果たすことにつながる。